

Ryukoku University



## 「授業目的公衆送信補償金制度」 利用実績調査に関する研修会

ー龍谷大学文学部における本調査の対応についてー

2022年3月9日

龍谷大学 文学部教務主任 岩尾 一史 / 文学部教務課 秦 昌宏

### 自己紹介



龍谷大学文学部教務主任（文学部歴史学科東洋史学専攻准教授）

岩尾 一史（いわお かずし）

龍谷大学文学部教務課長

秦 昌宏（はた まさひろ）

お問い合わせ先：hata@ad.ryukoku.ac.jp/ 075-343-3317

- 龍谷大学文学部の取り組み説明
  - (1) 利用報告への対応とスケジュール
  - (2) 本学の利用報告に関する取組内容  
(学内周知や利用報告の集約方法など)
- 授業を担当する教員の立場からの感想
- 次年度に向けての課題

## 利用報告への対応とスケジュール

## 利用報告への対応とスケジュール (1)



### ① 2021年3月 SARTRASホームページ

<https://sartras.or.jp/hokoku/>

2021年度の利用報告について告知、あわせて手引き等が公開される。

### ② 2021年7月16日 SARTRASホームページ

<https://sartras.or.jp/archives/news/210716-2/>

利用報告の依頼について

- ・4～8月分の利用報告の対象機関には、7月16日付で依頼状を発送したことを告知。  
(9月分の一部も依頼)
- ・2021年度の後半分については、9月までに教育機関に依頼することを告知。

### ③ 2021年9月22日 文化庁・文科省及びSARTRASから龍大へ依頼

対象学部：文学部 対象月：12月 ※報告締切 2022年1月末

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 5

## 利用報告への対応とスケジュール (2)



### ④ 2021年10月 学内関係部署で対応方法を検討

●調査方法 ●対象の範囲（科目・教員）の確認 ●他大学ヒアリング など

### ⑤ 2021年11月 メディア教育委員会（全学規模会議）

利用報告への対応方法を確認

### ⑥ 2021年11月17日 文学部教務委員会・文学部教授会

依頼に基づき、利用調査を行うことを報告（対象科目・調査期間など）

### ⑦ 2021年11月19日 対象科目担当教員へ依頼

### ⑧ 2022年1月末 利用報告 利用著作物の一覧をSARTRASへ提出

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 6

# 本学の利用報告に関する取組内容

## 本学の利用報告に関する取組内容（1）



### ④ 2021年10月 学内関係部署で対応方法を検討

●調査方法 ●対象の範囲（科目・教員）の確認 ●他大学ヒアリング など

#### ◇事前検討

教学部・情報メディアセンター・文学部教務課の管理職位者

#### ◇調査報告方法

- A. 教員がExcelシートに入力し、学内取りまとめ部署で集約してSARTRASへ報告
- B. 個々の教員が直接、SARTRASのWebシステムに随時入力（大学は不向き？）

#### ◇対象科目等の範囲の確認

- A. 文学部全科目（科目数：1,223科目、教員数：542人）
- B. 文学部専攻科目（科目数：665科目、教員数：278人）
- C. オンライン授業科目（科目数：149科目、教員数：135人）
- D. オンライン授業科目のうち文学部専攻科目のみ（科目数：71科目、教員数65人）

※C・Dは12月時点のオンライン授業科目

## 本学の利用報告に関する取組内容（2）



### ⑤ 2021年11月 メディア教育委員会（全学規模会議）

利用報告の対応方法を確認

- ・対象学部である文学部にどのように対応させるか一定の方針を確認

！ このタイミングで全学的にこのような対応が今後必要になることが認識される



情報メディアセンターより文学部長へ利用報告を依頼

### ⑥ 2021年11月17日 文学部教務委員会・文学部教授会

依頼に基づき、利用調査を行うことを報告（対象科目・調査期間など）

教員の反応は・・・

### ⑦ 2021年11月19日 対象科目担当教員へ依頼

対象教員へEメールで入力の手引きや報告用Excelシートを送付

教員の反応は・・・

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 9

## 本学の利用報告に関する取組内容（3）



### ⑧ 2022年1月末 利用報告 利用著作物の一覧をSARTRASへ提出

- ・12月は、コロナの感染状況が落ち着いており、オンライン授業科目が少なかった。
- ・第二学期授業は既に2/3が終了しており、12月に新たに利用する著作物が少なかった。

⇒提出以降、SARTRAS委託先からの問い合わせは無し

しかし、

2月18日付で2022年度利用報告の依頼が届く。

対象学部：社会学部（調査期間 2022年9月）

政策学部（調査期間 2022年12月）

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 10

**授業を担当する教員の立場からの感想**

**次年度に向けての課題**

## 次年度以降に向けての課題



### 本学の2022年度利用報告対象学部

9月 社会学部（報告締切10月末） / 12月 政策学部（報告締切1月末）

#### ◇2021年度の利用報告を終えて

- ・本利用報告の制度は（おそらく）現時点では、試行的な実施の側面が強い。  
今後、対象月（期間）の拡大や学部単位ではなく、例えば学校、学校法人単位で調査が来ないとも限らない。
- ・また、次年度の依頼があったことから、数年に1度のような頻度ではなく、毎年、どこかの学部が利用報告の対象となる可能性が高い。

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 13

## 次年度以降に向けての課題



#### ◇今後の課題

- ①著作物の利用記録に関する講習会等の実施（対象学部のみ？）
- ②利用報告の依頼の有無に関わらず著作物の利用を記録する仕組み（システム）・学内制度の検討
- ③利用著作物を報告しやすいように本制度への対応を変更する。  
特に教員は、著作物の報告の粒度が小さくて大変。  
⇒もう少し大きい単位で報告できるのであれば、報告がしやすい。  
例えば、  
manaba courseのコースコンテンツやWebシラバスのテキスト・  
参考資料等としてアップした著作物を報告する、など。

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 14

